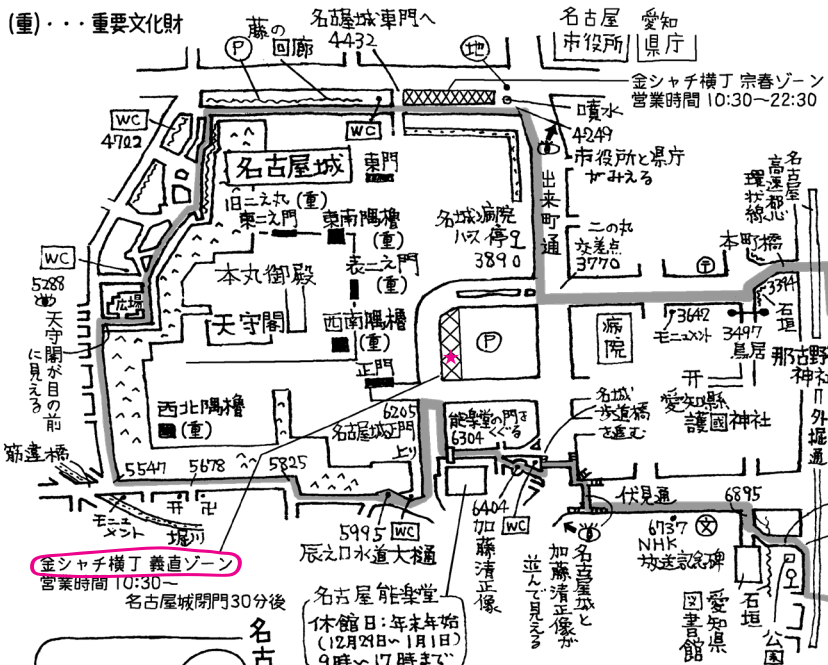


(重)・・・重要文化財



コースのあらし 関ヶ原の合戦に勝利を取った徳川家康が、西の豊臣方への備えとして築いた名古屋城とその城下町。近鉄名古屋駅発着で、名古屋城の周辺を巡り、城下町の今と昔の風景を味わう。駅周辺の斬新なデザインの高層ビル群と、往時の面影を色濃く残す古い街並みの対照が面白い。江戸時代から昭和時代まで水運が栄えた運河の跡、名古屋城の南側外堀界隈に点在する古い寺社や史跡、内堀の周囲から眺める天守閣の美しい姿など、歩くほどに楽しみが見つかる。

●てくてくまっぴはイラストマップですので、お出掛けの際は詳しい地図を各自でご用意ください。

ハイキングのエチケット
*ゴミはまとめて持ち帰りましょう。
*山火事防止のためタバコに注意しましょう。
*大切な自然です。植物の採集はつしみましょう。



名古屋城 徳川家康が「天下普請」として加藤清正らの西国大名に築城させた城。家康の九男・義直が、御三家筆頭、尾張徳川藩の初代藩主として入城した。本丸は昭和20年に戦災で焼失したものの、同34(1959)年に再建。本丸などの見学には入場料が必要だが、内堀の周囲を巡り歩くだけでも、元和5年建造で国重文指定の西北隅櫓など、名城の雰囲気は味わえる。天守閣の上で輝く有名な「金のシャチ」には、1基あたり約44kgの金を使用される。全国有数の規模を誇る天守閣は木造復元工事のため現在閉館中です。(2022年完成予定)

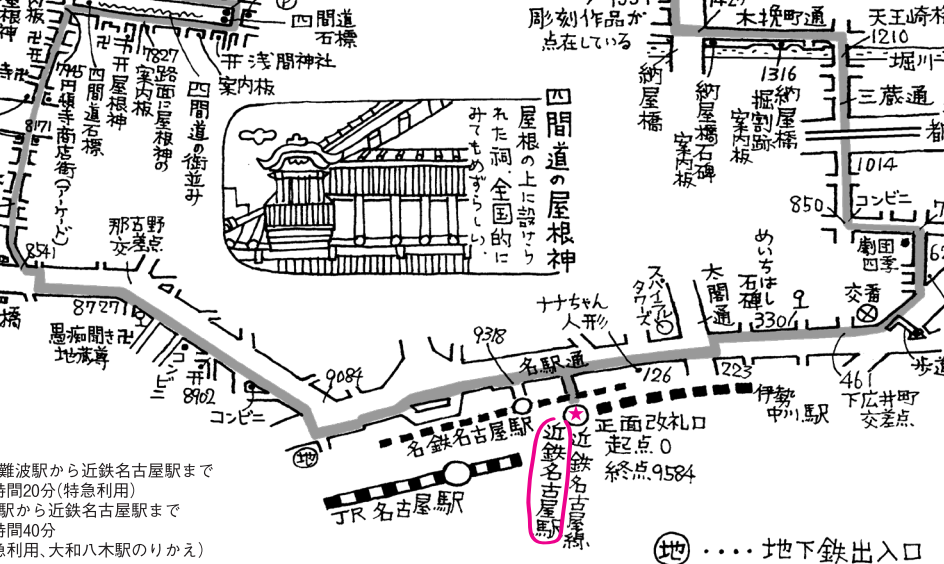
きれいな思い出 きれいな自然
ゴミやアキ缶は、持ち帰りましょう

近鉄あみま倶楽部の情報はコチラ!→

このコース地図は2020年6月調査に基づいて作成しています。風水害、天変地異等によりコース変更が生じることがありますので、事前にお問い合わせください。
当コースのお問い合わせ=近鉄名古屋イベント係
☎(059)354-7007

- 大鵜渡波から近鉄名古屋駅まで約2時間20分(特急利用)
- 京都駅から近鉄名古屋駅まで約2時間40分(特急利用、大和八木駅のみかえ)

★は近鉄あみま倶楽部アプリのチェックポイントです。



●約10キロ [近鉄名古屋駅~納屋橋掘割跡~東照宮~名古屋城~四間道~近鉄名古屋駅]

名古屋城と城下町今昔コース

納屋橋掘割跡 慶長15(1610)年の名古屋城築城の際に開削された運河・堀川は、城下町中心を南に流れる。その河畔には、江戸時代は尾張藩の倉が建ち並んで米などの物資の水運拠点となり、明治以降、名古屋港の国際貿易が盛んになると、港と内陸部を結ぶ水運にも使われた。川の両岸随所に荷の揚げ降ろし場があり、昭和半ばまで利用されたとい。堀川に多く架かる橋のうち、納屋橋と天王崎橋の間の掘割跡が、観光船発着場として整備されている。

名古屋東照宮 徳川家康はその死後、神格化され東照大権現として祭られた。日光が代表的だが、東照宮は日本各地に祭られ、尾張徳川藩でも家康死後3年の元和5(1619)年、城内三の丸に東照宮を創建。明治維新で一度は廃れたが、明治9(1876)年、旧藩校・明倫堂の跡地である現在地に再建された。東隣の那古野神社は延喜11(911)年創建と伝える古社。堀川の西にある「那古野」という地名は「なごの」と読むが、この神社は「なごや」。

四間道の街並み 堀川の西側地域は水運に加え、美濃路沿道として栄え、多くの蔵や豪壮な町家が建ち並んだ。それが元禄13(1700)年の大火で焼失した後、美濃路の西側の裏道が延焼防止のため4間(約7m)に拡幅され、四間道と呼ばれるように。四間道東側には防火目的の土蔵造りや石垣積み、西側に町家が並ぶ独特の景観が形成された。珍しいのは、火除けの願いなどを込め、町家の屋根に造り付けられた秋葉神社などの小さな祠。立派な装飾が施され「屋根神」として信仰される。

- 地図内の数字は、起点からの実測距離(メートル)を表わしています。
- コース内の神社仏閣、施設等によっては、有料の個所があります。

